

ナホム書

第一章二二ネベに關する重き預言エルコシ人ナホムの異象の書一
 エホバは妬みかつ仇を報ゆる神エホバは仇を報ゆる者また
 忿怒の主エホバは己に逆らふ者に仇を報い己に敵する者にむ
 かひて憤恨を含む者なり三エホバは怒ることの遅く能力の大
 なる者また罰すべき者を必ず赦すことを爲さる者エホバの道
 は旋風に在り大風に在り雲はその足の塵なり四彼海を指斥て
 之を乾かし河々をしてごとく涸しむバシヤンおよびカ
 ルメルの草木は枯れレバノンの花は凋む五彼の前には山々ゆるぎ
 嶺々溶く彼の前には地墳上り世界およびその中に住む者皆ふ
 きあげらる六誰かその憤恨に當ることを得ん誰かその燃る
 忿怒に堪ることを得ん其震怒のそそぐこと火のごとし嚴も之
 がために裂く七エホバは善なる者にして患難の時の要害なり彼
 は己に倚頼む者を善知たまふ八彼みなぎる洪水をもてその處を
 全く滅し己に敵する者を幽暗處に逐やりたまはん九汝らエホバ
 に對ひて何を謀るや彼全く滅したまふべし患難かさねて起ら
 じ一〇彼等むすびからまれる荆棘のごとくなるとも酒に浸りを
 るとも乾ける藁のごとくに焚つくさるべし一エホバに對ひて
 惡事を謀る者一人汝の中より出て邪曲なる事を勸む二エホバ
 かく言たまふ彼等全くしてその數夥多しかるとも必ず焚たふ
 されて皆絶ん我前にはなんぢを苦めたれども重て汝を苦めじ一

三いま我が汝に負せし軛を碎き汝の縛を切はなすべし一四
 エホバ汝の事につきて命令を下す汝の名を負ふ者再び播る
 こと有り汝の神々の室より我雕像および鑄像を除き絶べし我
 汝の墓を備へん汝輕ければなり一五嘉音信を傳ふる者の脚山
 の上に見ゆ彼平安を宣ふユダよ汝の節筵を行ひ汝の誓願を果
 せ邪曲なる者重て汝の中を通らざるべし彼は全く絶る
 第二章一撃破者攻のほりて汝の前に至る汝城を守り路を窺ひ
 腰を強くし汝の力を大に強くせよ二エホバはヤコブの榮を舊に
 復してイスラエルの榮のごとくしたたまふ其は掠奪者これを掠
 めその葡萄蔓を壞ひたればなり三その勇士は楯を紅にしその
 軍兵は紅に身を甲ふ其行伍を立てる時には戰車の鐵灼燦て火
 のごとし鎗また閃めきふるふ四戰車街衢に狂ひ奔り大路に推
 あふ其形状火炬のごとく其疾く馳すること電光の如し五彼そ
 の將士を憶ひいだす彼らはその途にて躓き仆れその石垣に奔
 ゆき大楯を備ふ六河々の門啓け宮消うせん七この事定まれり彼
 は裸にせられて虜はれゆきその宮女胸を打て鴿のごとくに啼く
 べし八二ネベはその建し日より以來水の滿る池に似たりしがそ
 の民今は逃奔する止れ止れと呼ども後を顧みる者なし九白銀を
 奪へよ黄金を奪へよその寶物限なく諸の貴とき器用夥多し一
 〇滅亡たり空虚なれり荒果たり心は消え膝は慄ひ腰には凡
 て劇しき痛あり面はみな色を失ふ一獅子の穴は何處ぞや少き
 獅子の物を食ふ處は何處ぞや雄獅子雌獅子その小獅子ととも

に彼處に歩むに之を懼れしむる者なし三雄獅子は小獅子のた
 めに物を嚙ころし雌獅子の爲に物をくびり殺しその掠獲たる物
 をもて穴に充しその裂殺しし物をもて住所に滿す三萬軍の王
 ホバ言たまふ視よ我なんぢに臨む我なんぢの戰車を焚て煙と
 なすべし汝の少き獅子はみな劍の殺す所とならん我また汝の
 獲物を地より絶べし汝の使者の聲がさねて聞ゆること無らん
 第三章 禍なるかな血を流す君その中には全く詭譎および
 暴行充ち掠め取ること息まず二鞭の音あり輪の轟く音あり馬
 は躍り跳ね車は輻り行く三騎兵馳のぼり劍きらめき鎗ひらめく
 殺さるる者夥多しくして死屍山を爲し死骸限なし皆死屍に躓
 きて倒る四是はかの魔術の主なる美しき妓女多く淫行を行ひそ
 の淫行をもて諸國を奪ひその魔術をもて諸族を惑したるに因て
 なり五萬軍の王ホバ言たまふ視よ我なんぢに臨む我なんぢの
 裳裾を掲げて面の上にまで及ぼし汝の陰所を諸民に見し汝の
 羞る所を諸國に見すべし六我また穢はしき物を汝の上に投かけ
 て汝を辱しめ汝をして寶物とならしめん七凡て汝を見る者はみ
 な汝を避て奔り去り去りニネベは亡びたりと言ん誰か汝のため
 に哀かんや何處よりして我なんぢを弔ふ者を尋ね得んや八汝あ
 にノアモンに愈らんやノアモンは河々の間に立ち水をその
 周圍に環らし海をもて壕となし海をもて垣となせり九かつその
 勢力たる者はエテオピア人およびエジプト人などにして限あら
 ずフテ人ルビ人等汝を助けたりき〇然るに是も俘囚となりて

虜はれてゆきその子女は一切の衢の隅々にて投付られて碎け又
 その尊貴者は籤にて分たれ其大なる者はみな鍵に繋がれたり一
 汝もまた醉せられて終に隱匿ん汝もまた敵を避て逃る處
 を尋ね求めん二汝の城々はみな初に結びし果のなれる
 無花果樹のごとし之を撼がせばその果落て食はんとする者の
 口にいる三汝の中にある民は婦人のごとし汝の地の門はみ
 な汝の敵の前に廣く開きてあり火なんぢの鬮を焚ん四汝水を
 を汲て圍まるる時の用に備へ汝の城々を堅くし泥の中に入れて踐
 て石灰を作りかつ瓦燒窯を修理へよ五其處にて火汝を燒き劍
 なんぢを斬ん其なんぢを滅すこと吸蝗のごとくなるべし汝
 吸蝗のごとく數多からば多かれ汝群蝗のごとく數多からば
 多かれ六汝はおのれの商賈を空の星よりも多くせり吸蝗掠
 めて飛さる一七汝の重臣は群蝗のごとく汝の軍長は蝗の群の
 ごとし寒き日には垣に巢窟を構へ日過ぎたれば飛て去るその
 在る處を知る者なし八アッスリヤの王よ汝の牧者は睡り汝の
 貴族は臥す又なんぢの民は山々に散さる之を聚むる者なし九
 汝の傷は愈ること無し汝の劍は重し汝の事を聞およぶ者は
 みな汝の故によりて手を拍ん誰か汝の悪行を恒に身に受ざる
 者やある